

前九年合戦

前九年合戦は、永承 6 年 (1051) から康平 5 年 (1062) にかけて東北地方であった安倍氏一族と朝廷から派遣された源頼義・義家父子ら官軍との戦いです。

安倍氏が勢力を国府多賀城（宮城県多賀城市）の管轄する領内にまで広げると、国府と安倍氏の仲は悪くなりました。多賀城とは 8 世紀頃、朝廷の蝦夷制圧の拠点として設置されました。胆沢城が奥六郡を、多賀城が奥六郡より南の領域を管轄した。永承 6 年に鬼切部の戦いが起こり安倍氏は陸奥守・藤原朝臣登任ら国府軍に大勝しました。



前九年合戦絵詞「重陽の節句に安倍貞任、将軍を奇襲する」
国立歴史民俗博物館 所蔵

その後、源頼義は陸奥守兼鎮守府将軍に任命され、安倍氏を攻めましたが、なかなか倒すことはできませんでした。

康平 5 年 (1062)、頼義の要請を受けた出羽地方の豪族・清原氏が加勢し、ついに安倍氏は厨川柵で滅びました。このとき、宗任は捕えられ、九州へ流されました。

592年 710年	794年	1185年	西暦
飛鳥・奈良	平安	鎌倉	時代
6～8世紀	9～11世紀	12～13世紀	



ついでに『北梅の図』 尾竹國観作
一ノ倉邸（吾郷様荘）所蔵

わが国の梅の花とは見たれども
大宮人は如何言うらん
『平家物語 剣巻』より

蝦夷は花の名など知らぬだろうと侮辱した都の貴族が梅の花を安倍宗任に見せた際に、宗任が詠った歌。歌で答えた宗任に都人は驚いたといいます。

- 所在地 岩手県胆沢郡金ケ崎町西根
縦街道南、原添下、鳥海、二ノ宮後
- 交通案内
電車 / JR 金ケ崎駅より徒歩約 20 分
バス / 岩手県交通下城バス停より徒歩約 10 分
車 / 北からは北上金ケ崎 IC より 10 分
南からは水沢 IC より 5 分
- 問合せ先 金ケ崎要害歴史館 TEL 0197-42-3060



国指定史跡



とのみのさくあと

鳥海柵跡

奥六郡の主 安倍氏一族の拠点



鳥海柵の主・安倍宗任

宗任は奥州藤原初代となった清衡の叔父で、娘は二代基衡の妻で、三代秀衡の母です。安倍氏と鳥海柵は奥州藤原氏の前史そのものであり、平泉文化の礎となる重要な文化遺産です。

金ケ崎町教育委員会

安倍氏一族

10 世紀後半になると、胆沢城（奥州市）の律令体制は崩れ、胆沢城の在庁官人（郡司か）であった安倍氏が力を持つようになり、安倍頼良は「六箇郡（奥六郡）の司」と呼ばれるほどに力を持ち、北上川流域に 12 の柵を置いて奥六郡を支配しました。

在庁官人とは平安時代中期から鎌倉時代に、地方の役所で実務に従事した官僚で朝廷から遣わされた国司が現地で採用したとされます。



安倍 頼良



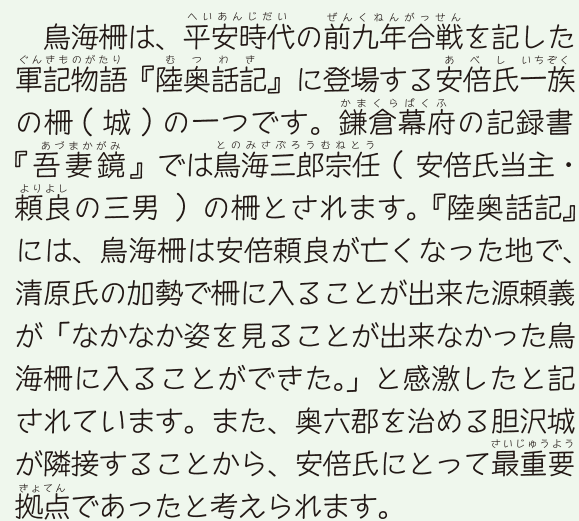
奥六郡とは



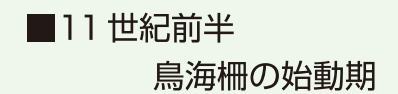
奥六郡の配置
10 世紀半ば頃

胆沢城造営から 10 世紀半ばまでに、陸奥国中部に朝廷が置いた郡の総称。6 つの郡とは、伊沢（胆沢）、江刺、和我（和賀）、斯波（紫波）、葦縫（稗貫）、岩手郡。現在の奥州市から盛岡市にかけての地域をいいます。

鳥海柵跡は、北上川と胆沢川の合流点から
 西北西方向に約 2.5kmで、胆沢川北岸（金ヶ
 崎段丘の端）に位置します。比高約 10mの段
 丘縁は、自然の沢による 3 条の開析谷で 4 つ
 の台地に分割されます。当地より南東方向に
 約 2kmで、南岸には鎮守府胆沢城があります。
 胆沢城は、坂上田村麻呂が築城した城で、朝
 廷による蝦夷政策の拠点として鎮守府が置か
 れました。



鳥海柵跡全景



縦街道区域大型の建物跡出土遺物
(土師器杯・高台杯・小皿・柱状高台、鉄製品、土製品、水晶玉)

■11世紀中頃
軍事的性格を強めた館へ

原添下区域南東部には四面廂付と四面廂なしの掘立柱建物、竪穴建物3棟が配され、周囲を囲むように L 字状の堀が掘られていました。

鳥海区域には、北と南の沢を結ぶように大規模な直線状の堀が掘削され、大規模な方形区画（南北約 140m、東西約 170m）が造られていました。

大規模な堀を造営して区画した台地に櫓や柵を設け、軍事的性格を強めた館になったと考えられます。

